

医療と健康保険に関する意識等調査
報告書概要

平成21年11月
全国健康保険協会

1 調査概要

1.1 調査の目的

協会けんぽ加入者の医療や健康保険に対する意識や意見、要望等を把握し、協会の事業やサービスの向上、保険者機能の発揮のための企画立案に資する基礎資料とする。

1.2 調査設計

調査対象者 : 委託先である株式会社インテージの「インテージ・ネットモニター」のうち協会けんぽ加入者（事前調査により把握）

対象者条件 : 20歳から74歳男女。年代、性別、地域、被保険者・被扶養者の分布に偏りがないよう、加入者の構成比に準じてサンプル設計。

対象者数 : 有効回収数 2,454 サンプル
調査依頼数 2,980 サンプル（有効回収率 82.3%）

1.3 調査手法 インターネット調査

1.4 調査実施時期 平成21年9月11日～15日（事前調査実施8月28日～9月8日）

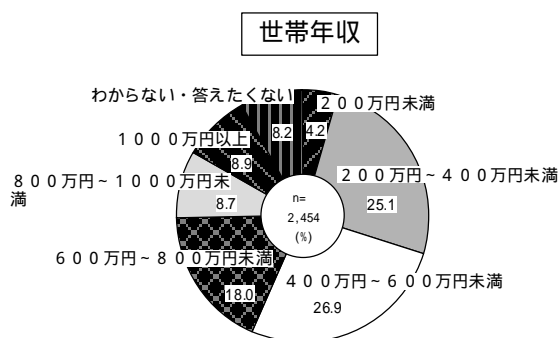
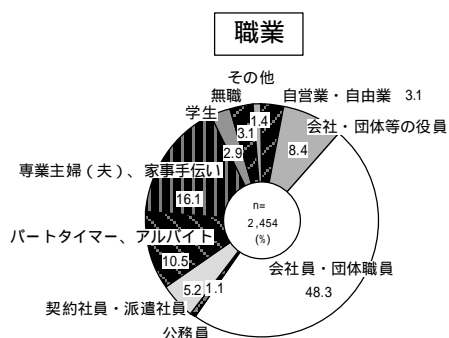
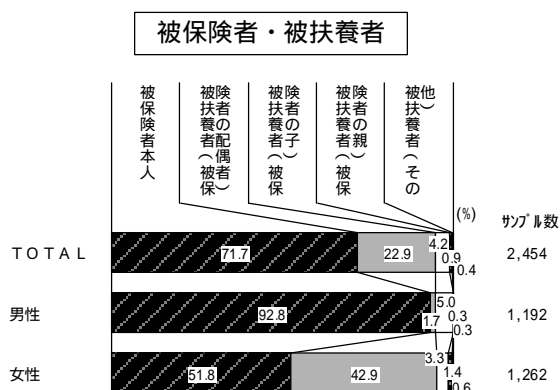
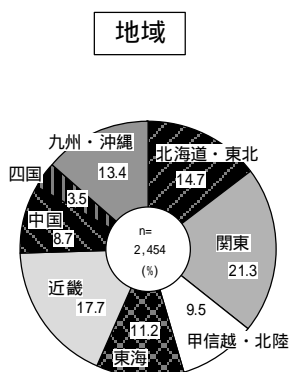
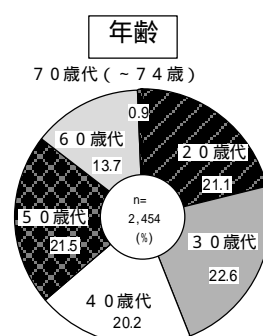
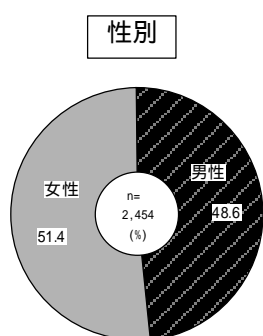
1.5 調査内容

- ◇ 最近1年間の医療機関受診状況
- ◇ 医療機関を外来受診した際の重視項目と満足度
- ◇ 受診意識とかかりつけ医の有無
- ◇ 健康維持・生活習慣病予防に関する取り組み
- ◇ 医療全般に対する満足度、不安
- ◇ 医療についてほしい情報
- ◇ ジェネリック医薬品の認知と利用状況
- ◇ 医療の負担とサービスの関係について
- ◇ 今後の医療政策について

本調査において、複数回答のデータにはその旨記載している。
特に記載のないデータは単数回答である。

1.6 基本属性

- 性別：「男性」48.6%、「女性」51.4%
- 年齢：「20歳代」21.1%、「30歳代」22.6%、「40歳代」20.2%、「50歳代」21.5%、「60歳代」13.7%、「70～74歳」0.9%
- 地域：「北海道・東北」14.7%、「関東」21.3%、「甲信越・北陸」9.5%、「東海」11.2%、「近畿」17.7%、「中国」8.7%、「四国」3.5%、「九州・沖縄」13.4%
- 被保険者・被扶養者：「被保険者本人」が7割(71.7%)、「被扶養者(配偶者)」が2割(22.9%)
- 職業：「会社員・団体職員」が約半数(48.3%)、次いで「専業主婦(夫)・家事手伝い」が2割弱(16.1%)、「パートタイマー・アルバイト」が1割(10.5%)
- 世帯年収：「400万円～600万円未満」が3割弱(26.9%)で最も多く、「200万円～400万円未満」(25.1%)がそれに続き、年収600万円未満が全体の半数強(56.2%)を占めている。



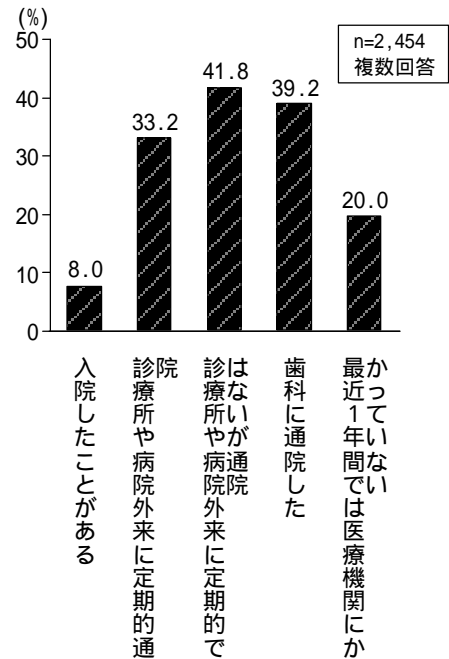
2 調査結果のまとめ

2.1 医療サービス利用実態

最近1年間の医療機関受診状況

最近1年間に入院経験のある人は全体の1割弱(8.0%)で、定期的に外来受診をしている人は3割(33.2%)、不定期だが外来を受診した経験のある人は4割(41.8%)となっている。

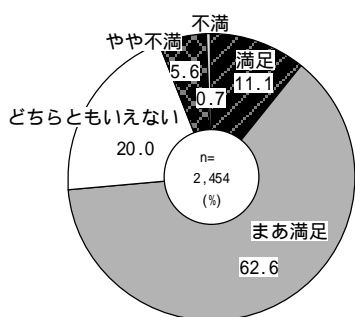
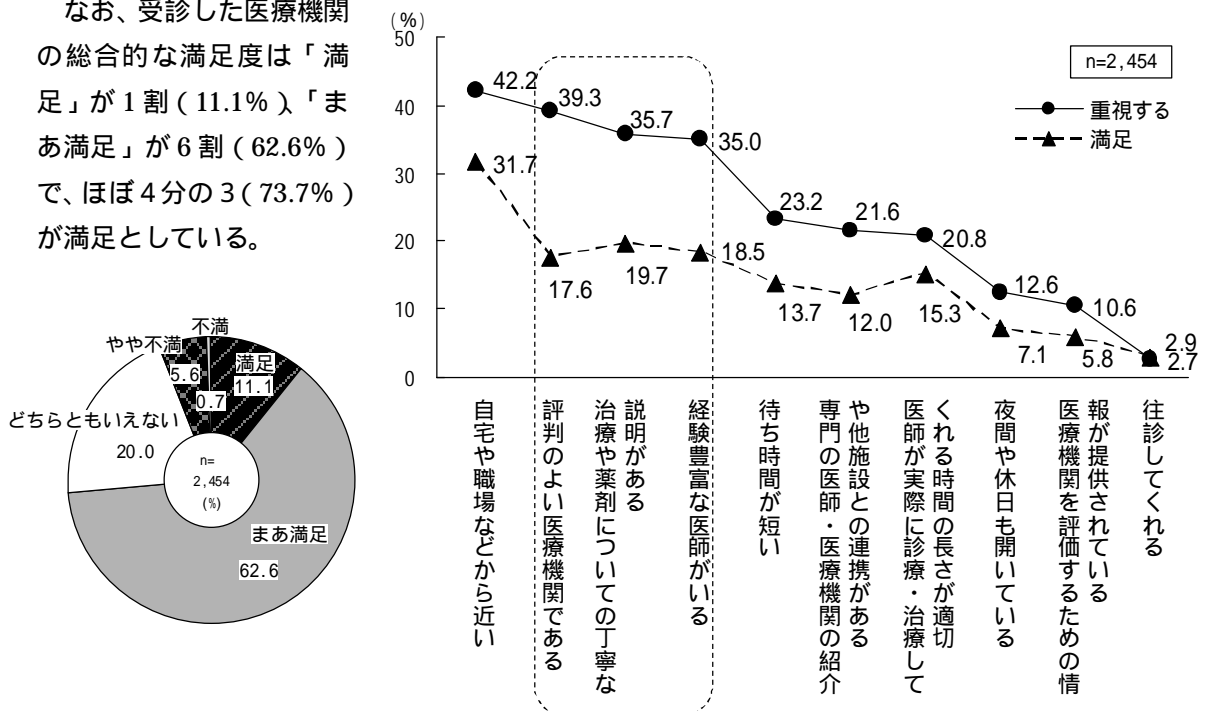
歯科も含め受診経験のない人は2割(20.0%)にとどまり、加入者の8割は医療機関を利用していることがわかる。



医療機関を外来受診した際の重視項目と満足度

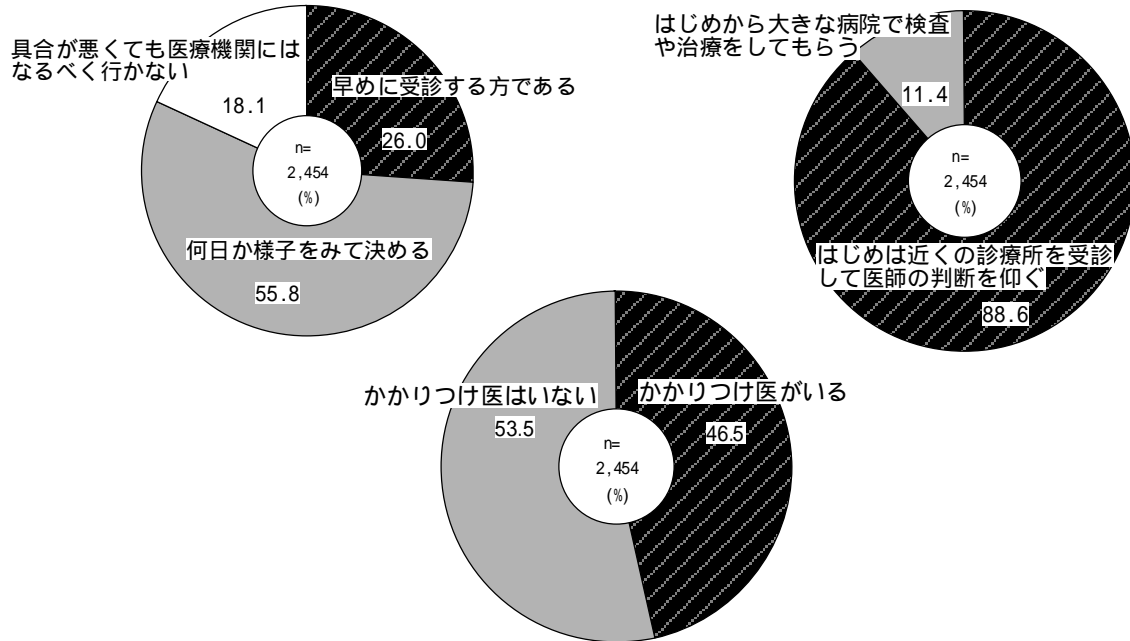
外来(通院)の医療機関を選択する際に最も重視する項目としては『自宅や職場から近いこと』で4割(42.2%)を超えている。直近利用した医療機関について満足した項目としても『自宅や職場から近いこと』が最もあげられており、3割(31.7%)が満足と答えた。しかし、次いで重視している『評判のよい医療機関である(39.3%)』『治療や薬剤についての丁寧な説明がある(35.7%)』『経験豊富な医師がいる(35.0%)』は重視度と満足のギャップが大きくなっている。

なお、受診した医療機関の総合的な満足度は「満足」が1割(11.1%)、「まあ満足」が6割(62.6%)で、ほぼ4分の3(73.7%)が満足としている。



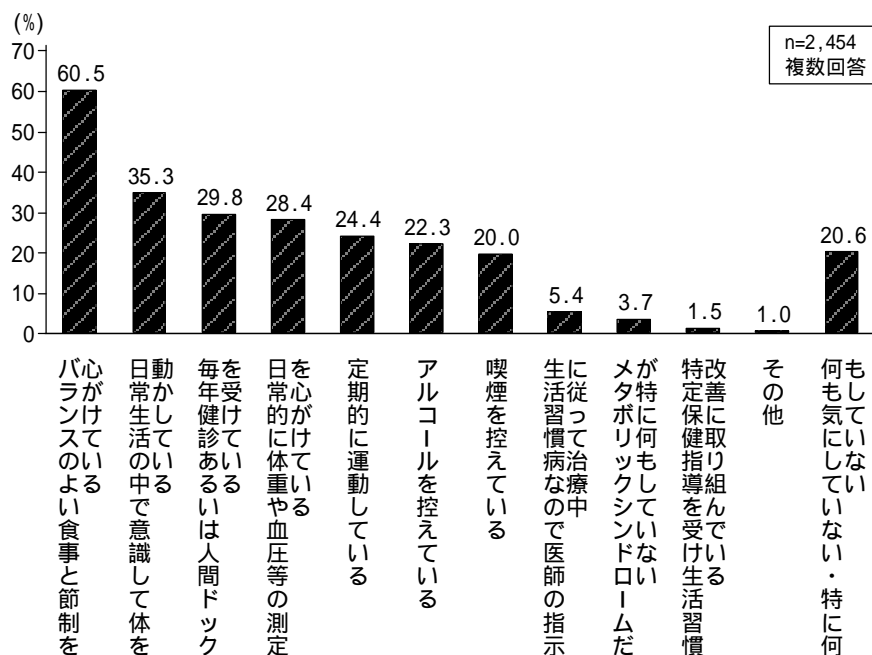
受診意識とかかりつけ医の有無

体調不良時の受診意向としては、「早期受診」が3割弱（26.0%）、「しばらく様子を見てから受診」する人が6割近く（55.8%）いる一方で、2割（18.1%）が「医療機関にはなるべく行かない」としている。また、医療機関の選び方としては「はじめは近くの診療所を受診」する人が9割（88.6%）を占める。なお、かかりつけ医が「いる」人は約半数（46.5%）である。



健康維持・生活習慣病予防に関する取り組み

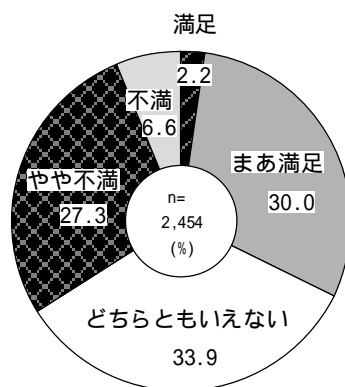
全体の6割（60.5%）の人が健康維持や生活習慣病予防として「バランスのよい食事と節制」を心がけている一方で、「特に何もしていない」人も2割（20.6%）を占める。また、「毎年健診を受けている」人は3割（29.8%）にとどまっている。



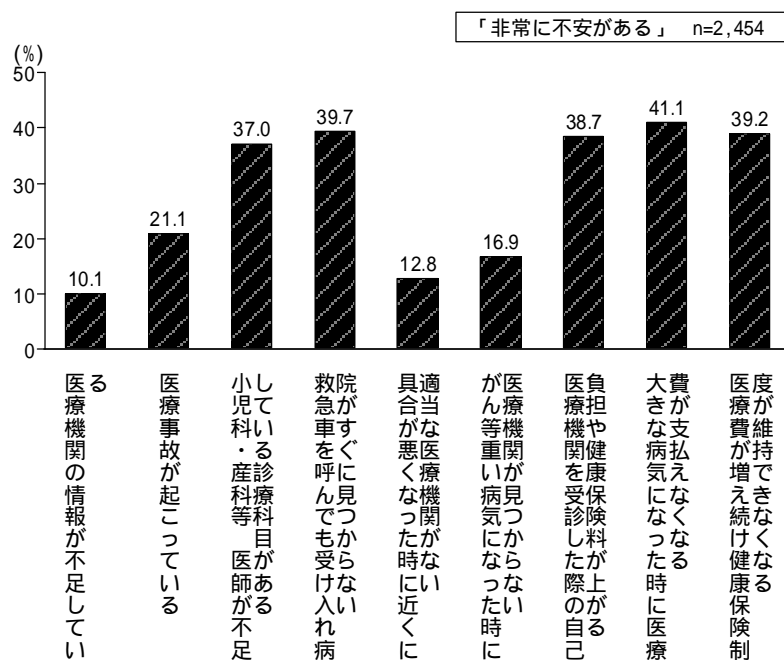
2.2 医療制度・健康保険等に関する意識

医療全般に対する満足度、不安

日本の医療水準の総合的な満足度では、「満足」はわずか2.2%にとどまり、「まあ満足(30.0%)」を加えた肯定意見と、「不満(6.6%)」「やや不満(27.3%)」の否定意見、「どちらともいえない(33.9%)」に3等分されている。



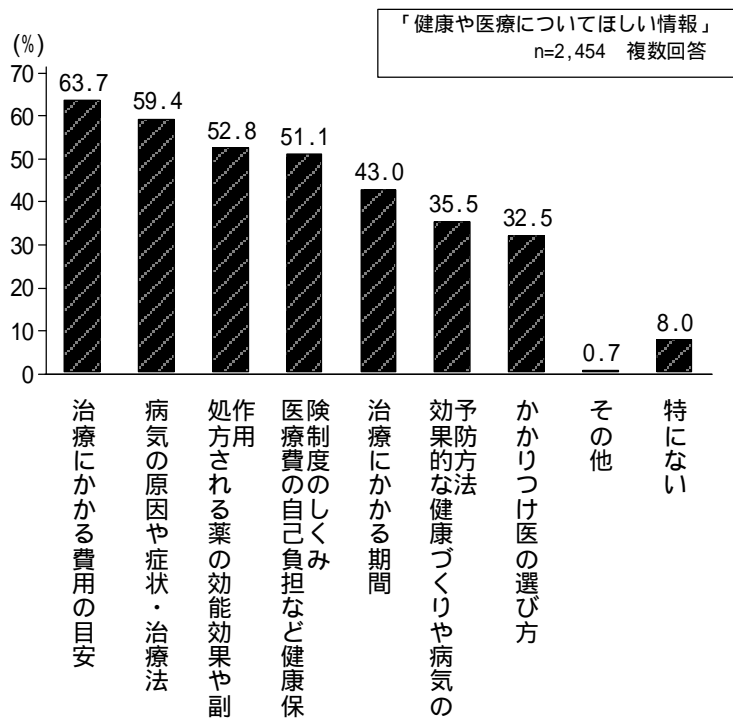
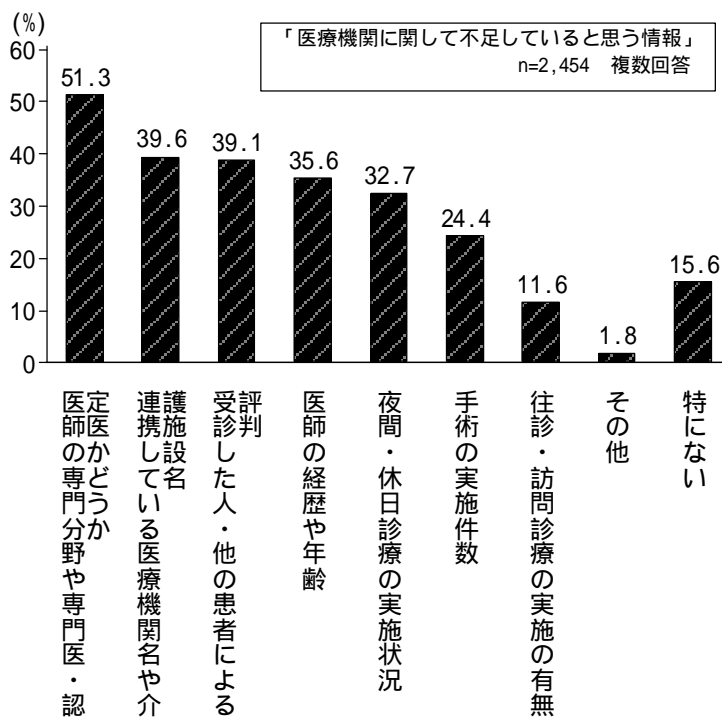
『医師不足の診療科目』『救急車による病院の受け入れ』『受診時の自己負担や保険料が上がる』『大きな病気になった時の医療費の支払い』『健康保険制度の維持』を「非常に不安」と思っている人は4割前後となっている。



医療についてほしい情報

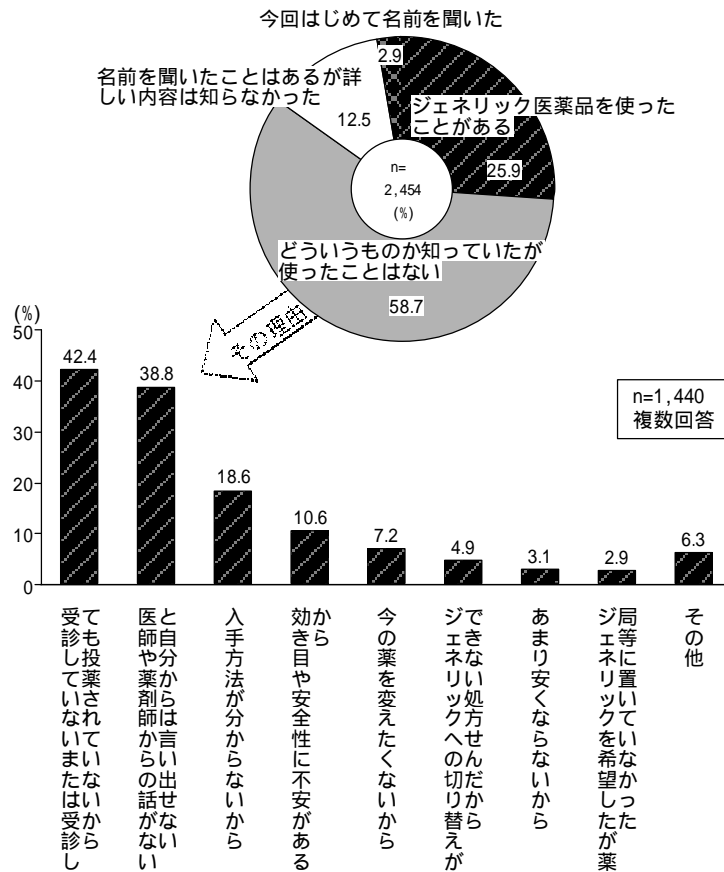
医療機関に関して不足していると思う情報としては、「医師の専門分野や専門医・認定医かどうか(51.3%)」が最も多く、次いで「連携している医療機関名や介護施設名(39.6%)」「受診した人・他の患者による評判(39.1%)」があげられた。

健康や医療についてほしい情報では、「治療にかかる費用の目安(63.7%)」「病気の原因や症状・治療法(59.4%)」「処方される薬の効能効果や副作用(52.8%)」の順に多くあげられている。



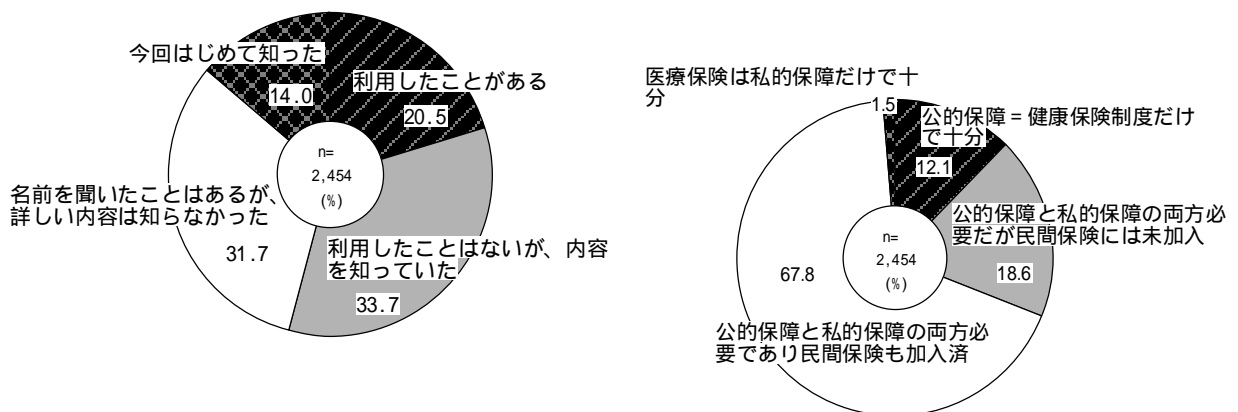
ジェネリック医薬品の認知と利用状況

ジェネリック医薬品の使用経験は4人に1人(25.9%)であった。どういものか知っているにもかかわらず使ったことがない理由としては「医師や薬剤師からの話がないと自分からは言い出せない」が4割(38.8%)にも及ぶ。

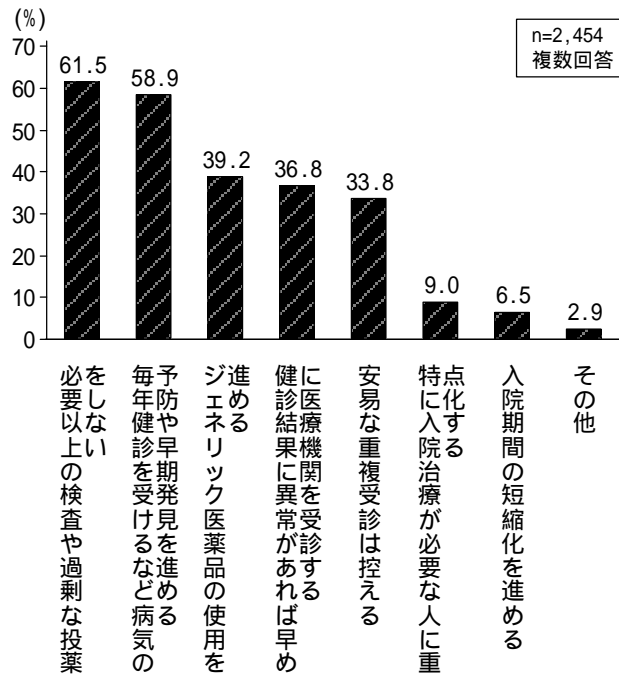


医療の負担とサービスの関係について

高額療養費制度については「利用したことがある」が2割(20.5%)、「利用したことはないが、内容を知っていた」が33.7%であり、内容まで知っている人は半数強にとどまることがわかった。また、医療保険について「公的保障と私的保障の両方必要」と考える人がほとんどである(86.4%)。

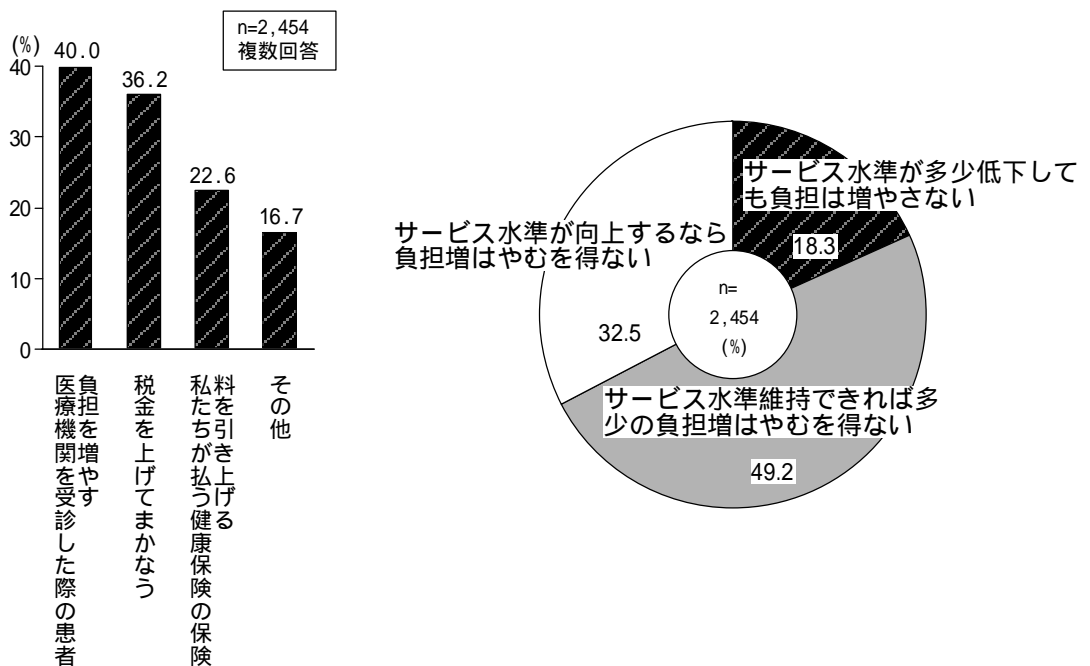


増え続ける医療費に対しては「必要以上の検査や過剰な投薬をしない（61.5%）」と医療機関に対する要望と同時に、「毎年健診を受けるなど病気の予防や早期発見を進める（58.9%）」といった個人の取り組みが必要と考える割合も高い。



医療費負担増に対して適切と考える対策としては「受診した際の患者負担を増やす」と答えた割合が最も高く（40.0%）、次いで「税金を上げてまかなう」（36.2%）となっている。

また、サービス水準と負担に関しては「サービスの水準が維持できれば多少の負担増はやむを得ない」との回答が半数を占める（49.2%）。



今後の医療政策について

日本の医療に対して望むこととしては「医師の養成・確保(67.3%)」「医師不足とされる小児・周産期医療等体制の整備(65.7%)」「専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保(54.6%)」といった医療提供体制の充実が強く望まれている。

